

# 無量壽

平成18年8月1日  
浄土真宗 本願寺派  
林徳寺 発行  
025 - 276 - 3456

## 浄土真宗物語⑧

善鸞様の訴えによって性信房や入信房などの有力門徒が鎌倉幕府にとらえられる事態となったため、聖人はやむなく、父と子の縁を切ることを善鸞様やお弟子たちに通告されたのです。

—(前略)親鸞が偽りを申したかのように触れ回っているのは父を殺すというもの、これも五逆の一つです。これらのことを伝え聞くにつけても、その情けなさはとても言葉では言い表せません。こうなつては、今はもう親であることはできません。あなたを子であると思ふことも断念しました。(後略)—

建長八(一二五六)年五月二十九日付けの聖人のお手紙には、右のようにかかれています。このころ聖人は八十四才でした。

聖人は、この義絶によって親であるという事実まで消そうとされたものではありません。かえって、義絶しなければならぬ子を持った親として、善鸞様の犯さねばならなかった罪とその罪の大きさを、重く深く背負っていかれたとも言えるのです。一方これまで動揺を続けていた関東の御門徒たちは、聖人のお言葉を力として、いよ本願念仏の道を受け継いでゆきました。



恵信尼様

聖人の奥様である恵信尼様は、

起こった頃には越後の米増に帰っておられたようです。実家である三善家から受け継いだ土地や財産を管理しながら、聖人との子供や、親に先立たれた孫たちを育てるためでした。聖人は関東の御門徒からの時々の送金のみを頼りとする生活でした

から、多くの家族を養うことはおできにならなかったのです。京都には末娘の覚信尼様が残られました。

—こちらには、親のない小黒の女房の女の子と男の子がおります上、益方の子どももここばかりにおりますので、私は何となく母親になったような気がいたします—

恵信尼様から覚信尼様に宛てられたお手紙に、越後での恵信尼様の、晩年の生活が良く書かれています。

なお、恵信尼様が晩年を過ごされたのは現在の新潟県上越市板倉区(旧中頸城郡板倉町)にあります。ここには恵信尼様の廟所(お墓の)



恵信尼様の廟所

こと)が整備され、亡くなられる前に自らの注文で作られたという五輪の塔がたっています。

続く

# 特集「仏の花道」で放送していただきました

今年（平成十八年）一月十七日の夕方、BSN新潟放送の「イブニング王国」の中で林徳寺を取り上げていただきました。毎週火曜日放送の「仏の花道」というコーナーです。

前年の十二月二十一日に取材をしていただきました。朝九時にスタッフの皆さんがおいでになりましたが、すでにその前に阿賀野川の風景を撮影してこられたというのでした。

「林徳寺ってこんなに立派な建物だったっけ？」と驚くほどきれいに撮っていただき、感激しました。

また前住職も、「うまくしゃべれたか心配だ」と放映が始まるまでは心細いような雰囲気でしたが、終了後はほっとした様子で、まんざらでもない顔つきでした。前住職はその後二月十三日に喉頭ガンの手術を受け、声帯を摘出してしまいましたので、本当によい記念になりました。



① オープニング



② 正面



③ 前住職



④ 本堂内部



⑤ 近藤アナウンサーと



⑥ 芭蕉句碑



⑦ 開基佛



⑧ エンディング



来年から、第十期「新潟組連続研修会（連研）」が新たに始まります。これは新潟市近辺のお西のお寺を会場に、二年間で十二回の研修を行うものです。研修といっても、そんなに堅苦しいものではありません。浄土真宗の教えについての学習はもちろんですが、話し合いの法座、お経の読み方や焼香などの作法の練習、仏教讃歌の練習などもあります。この連続研修の受講者を募集しています。希望の方は十八年度中に林徳寺へお申し出ください。なお、参加費は寺院負担です。

連研参加者募集中